

現状の日本の医学教育が世界標準に適合しない部分は、主に臨床実習を診療参加型にすることや多職種連携、実習期間の短さなどにあるとされている。ところで二〇二〇年四月から適用予定の「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」改正では、臨床実習施設認定条件の高度化と診療参加型臨床実習の推奨が盛り込まれている。

このような医療人育成教育の課題を受けて、第十回目の熊本県医療人育成総合会議では、医学・薬学・保健学教育の世界標準化と診療参加型臨床実習について議論を行いました。

実行委員：片淵秀隆（実行委員長）、入

- 江徹美、遠藤文夫、尾池雄一、河野文夫、木原信市、迫田芳生、辻野智二、古川 昇、松下修三、山本哲郎、大河内彩子、西谷陽子、藤井浩一、前田ひとみ

事務局：吉本昭彦、三浦敬三、田中温子
テーマ：「医学・薬学・保健学教育の世界標準化と診療参加型臨床実習」

日時：令和元年十一月十六日（土）

午後一時三十分～五時

場所：熊本大学医学部キャンパス 医学総合研究棟三階講習室

司会：熊本大学大学院生命科学研究部 教授 西谷 陽子氏

熊本大学大学院生命科学研究部 准教授 古川 昇氏

講演一 「医学教育の世界標準化と診療参加型臨床実習」

一般社団法人日本医学教育評価機構 常勤理事 奈良 信雄氏

講演二 「国際標準から熊本大学医学部

医学科教育の現状と課題を考える」
熊本大学医学部医学科長 教授 尾池 雄一氏

講演三 「薬学教育における国際調和と臨床実習：現状と課題」

熊本大学大学院生命科学研究部 薬物治療設計学講座 教授 入江 徹美氏

講演四 「看護・看護学教育の国際標準化」

熊本大学大学院生命科学研究部 公衆衛生看護学講座 教授 大河内彩子氏

講演五 「理学療法士の臨床実習教育が変わるー二〇二〇年のカリキュラム改正に向けてー」

九州中央リハビリテーション学院 教務部長 藤井 浩一氏

総合討論（司会者は同上）

パネリストは講演講師五名

参加人数 約一〇〇名

その後十一月二十五日に熊本日新聞紙面一頁に亘って講演・協議の内容を報告しました。また、その報告紙面を「肥後医育振興会」ホームページに掲載し、自由に閲覧できるようにいたしました。

令和元年度（第二十四回）肥後医育振興会医学研究助成を行う

令和元年度（第二十四回）肥後医育振興会医学研究助成金授与候補者の選考が、令和元年九月九日に肥後医育振興会助成選考委員会において行われました。

令和元年度の助成選考委員会は、それぞれの所属機関から推薦を受けた次の七名です。熊本大学大学院生命科学研究部から山縣和也教授（基礎系）、片淵秀隆教授（臨床系）、河野宏明教授（保健学系）、熊本大学薬学部から入江徹美教授、センター系からは熊本大学発生病学研究所の嶋村健児教授、熊本県医師会から高橋 毅理事（国立病院機構熊本医療センター院長）、関連病院からは熊本市立熊本市市民病院の橋本洋一郎主席診療

部長で構成され、互選で山縣和也教授が委員長となって、応募者ひとり一人について公正且つ厳正な選考が行われました。

本年度の応募者は、熊本大学大学院生命科学研究部及び医学教育部から七名、熊本大学病院から七名、同発生病学研究部から一名、脳梗塞リハビリテーションセンター熊本から一名の計十六名であり、その中から次の四名が授与候補者として選考されました。その後、理事長に推薦し、理事会において承認された後、それぞれに十五万円が贈呈されました。

なお、併せて「肥後医育振興会学術奨励賞」という賞を付与し表彰されました。

山崎 昌哉（三十五才）

熊本大学大学院医学教育部 博士課程二年 がん生物学

「膵がんにおける腫瘍内不均一性と治療抵抗性の解明」

後藤 理沙（三十四才）

熊本大学病院 医員 乳腺・内分泌外科

「エストロゲン受容体陽性HER2陰性原発乳癌の予後に関連のある遺伝子発現の検討」

朝光 世煌（二十八才）

熊本大学発生病学研究所 特任助教